

北洋銀行のリスク管理への取組み状況

2010年8月

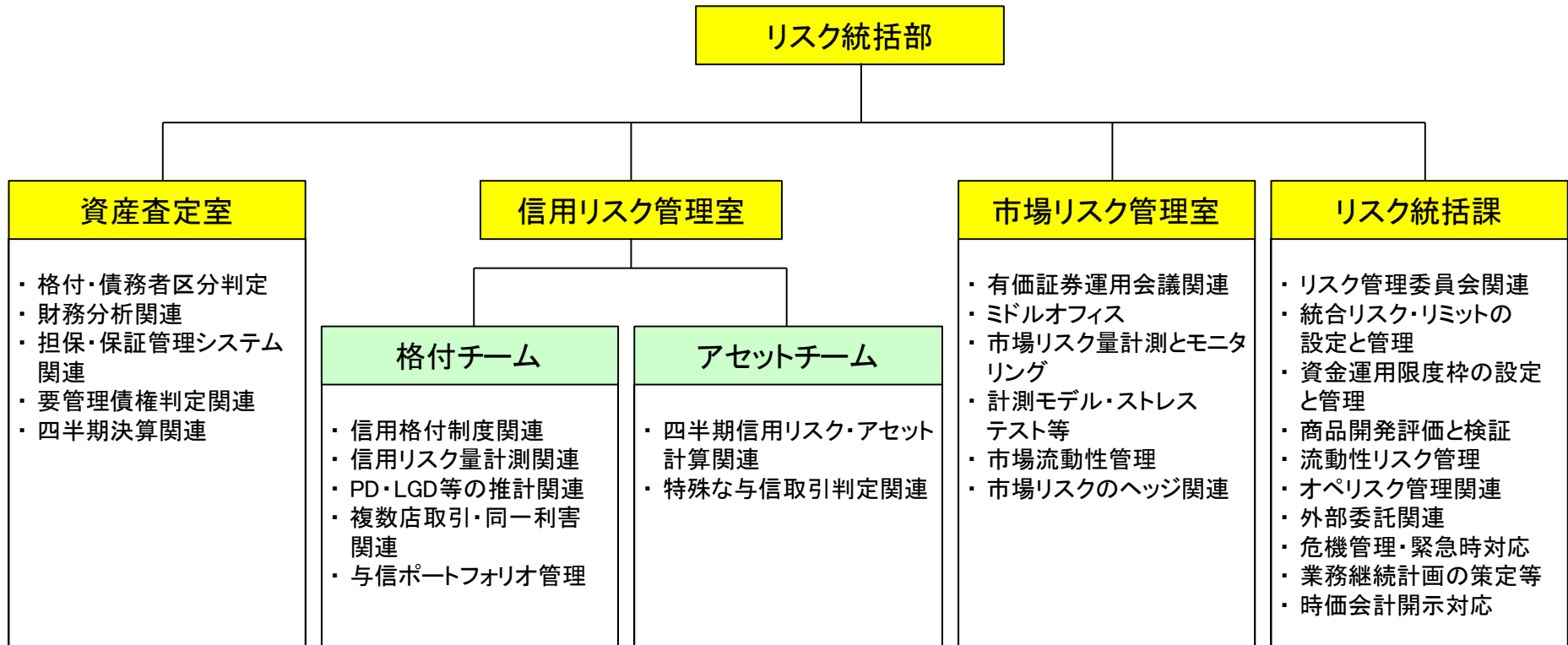
北洋銀行リスク統括部

目次

1. リスク統括部の業務内容
2. 統合的リスク管理
3. 市場リスク管理
4. 流動性リスク管理
5. 信用リスク管理
6. オペレーショナル・リスク管理
7. 危機管理とBCP
8. リスク管理にかかる今後の課題

1. リスク統括部の業務内容

1. リスク統括部の業務内容

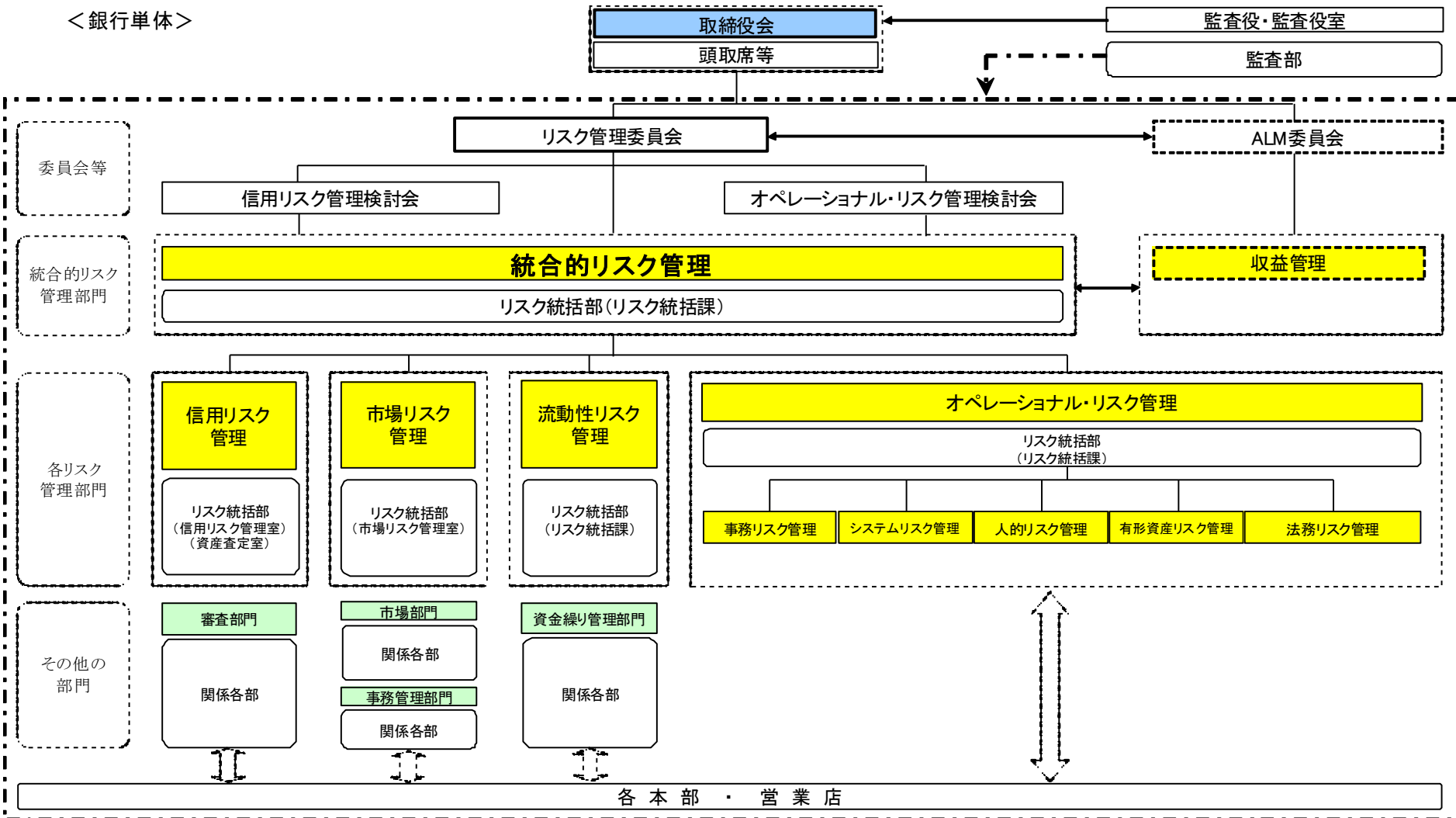


2. 統合的リスク管理

2. 統合的リスク管理

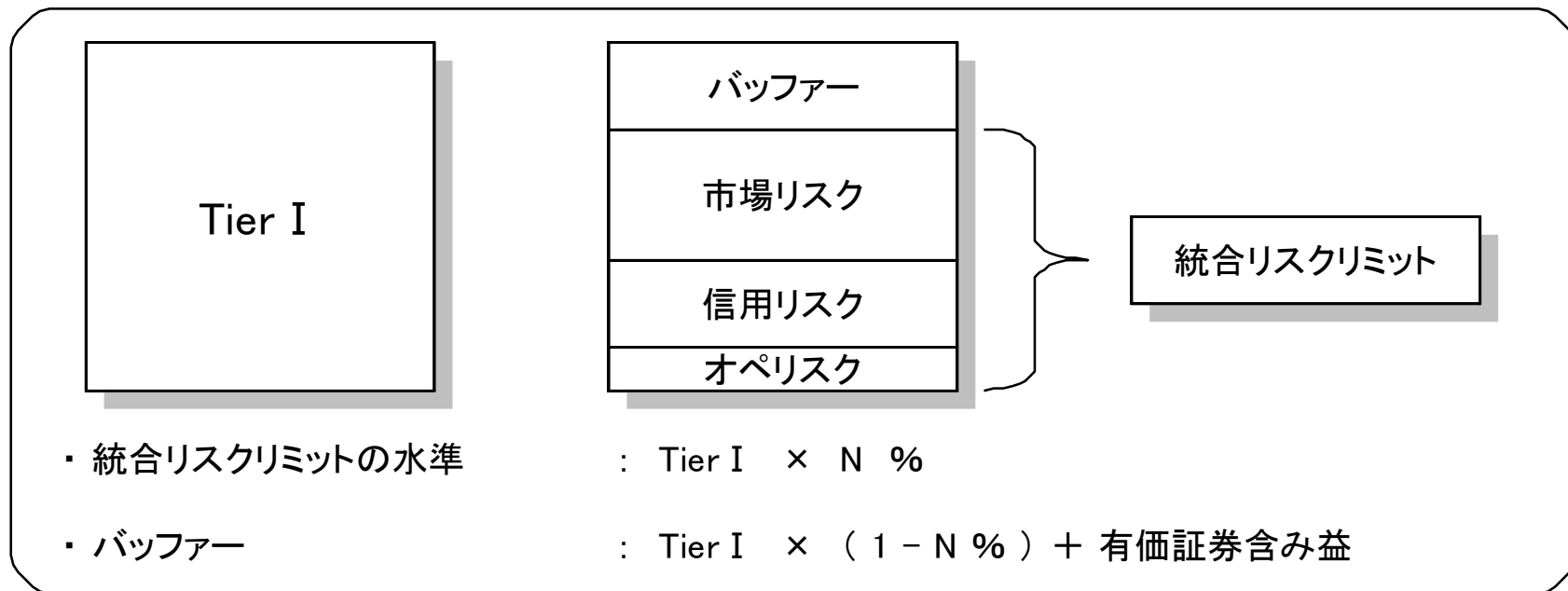
(1) 統合的リスク管理体制

< 銀行単体 >



(2) 統合リスクリミット管理

■ 概要



■ 管理

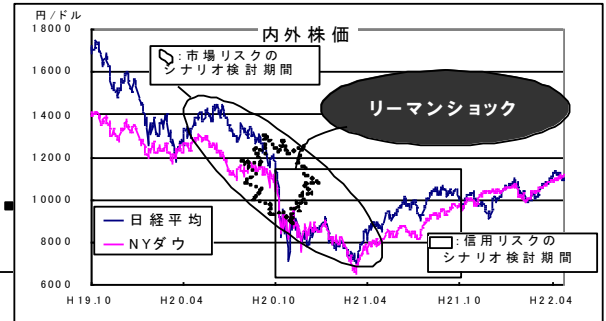
- ・ 日次管理 … とくに、市場リスクの変動を注視
- ・ 月次管理 … リスク管理委員会、ALM委員会報告

(3) 統合ストレス・テスト

【実施例】

「リーマンショック並みの相場下落・金融危機が再度発生した場合」

■ シナリオ



・ 市場リスク

	指標 (例)	H20.6.18	H21.3.10	変動幅
金利変動	円10年金利	1. ⁹⁹³ %	1. ²³⁸ %	▲0. ⁷⁵⁵ %P
株式相場変動	円株式(日経平均)	14,452. ⁸² 円	7,054. ⁹⁸ 円	▲7,397. ⁸⁴ 円
	米ドル株式(NYダウ)	12,029. ⁰⁶ ドル	6,926. ⁴⁹ ドル	▲5,102. ⁵⁷ ドル
為替相場変動	米ドル・円相場	107. ⁸⁸ 円	98. ⁶⁷ 円	▲9. ²¹ 円
⋮				

- ・ 経済価値の変動
⇒ リスク量への影響
- ・ 減損の発生
⇒ 損益への影響

・ 信用リスク

同一期間内の格付低下 … H20/9月からH21/9月に発生した格付下方遷移が発生
格付1格から2格へ○先遷移、格付1格から3格へ○先遷移、…
格付2格から3格へ○先遷移、格付2格から4格へ○先遷移、…
⋮
格付9格からデフォルトへ○先遷移

- ・ 与信ポートフォリオの悪化
⇒ リスク量への影響
- ・ 追加与信コストの発生
⇒ 損益への影響

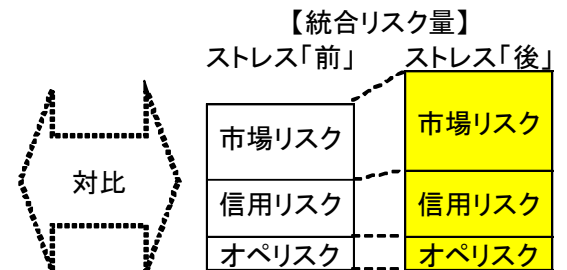
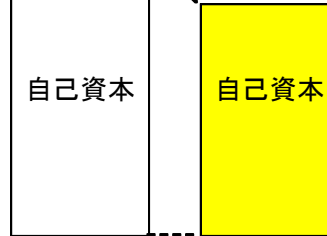
■ 評価 ~ 自己資本充実度の検証

<イメージ>

・「損益への影響」と「リスク量への影響」
…「自己資本」が減少し、「統合リスク量」が増加
⇒ 資本使用率○%以内とするためには、…

・「損益への影響」と「リスク・アセットへの影響」
…自己資本比率が低下
⇒ 自己資本比率○%を維持するためには、…

ストレス「前」 ストレス「後」



対比

(4) 新商品・新規業務のリスク評価

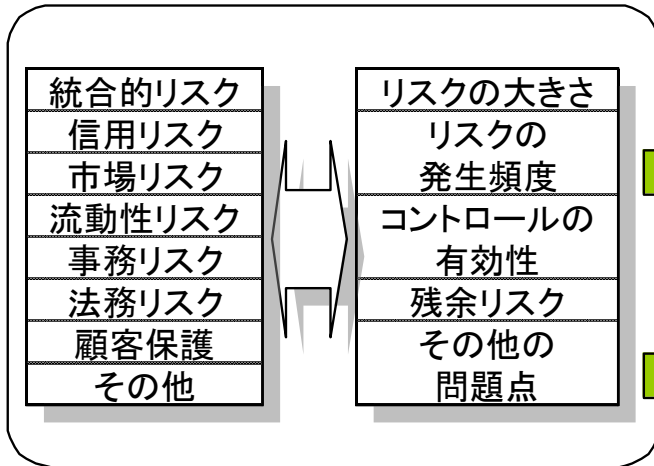
■ 新商品・新規業務の定義

- ・ 既存商品・業務等の取扱内容変更を含む

■ リスク評価プロセス

【イメージ】

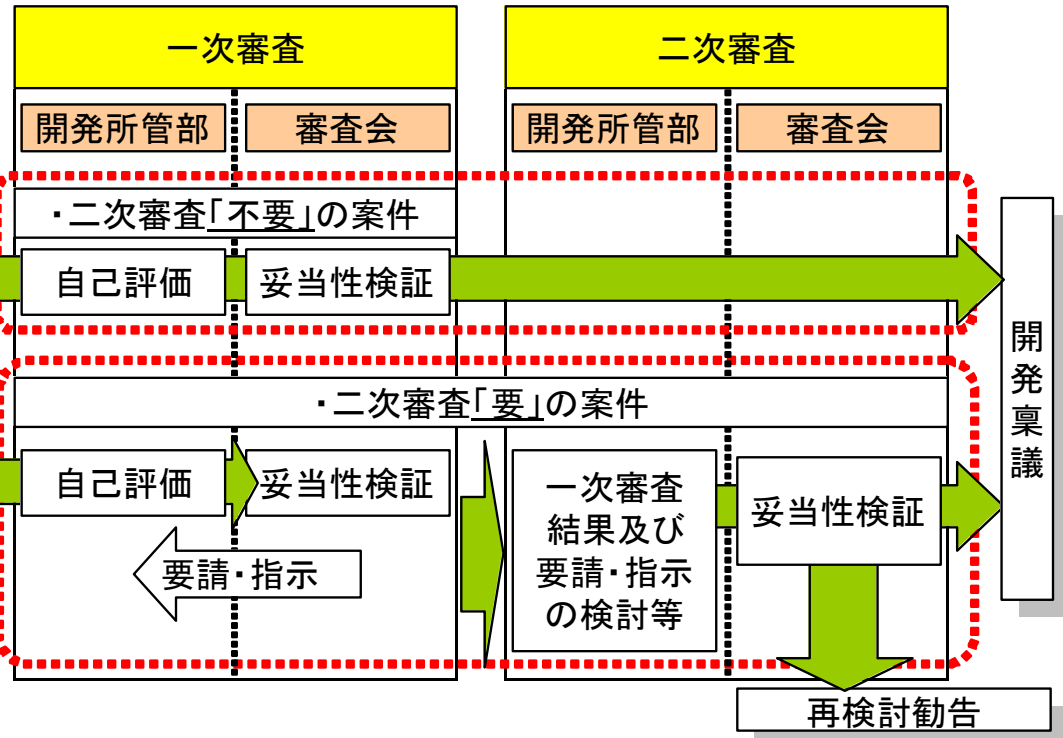
リスク評価の検討事項



例)
開発所管部が融資商品(特別ファンド)を開発。

審査会で格付別のスプレッド見直しを要請。

スプレッドを見直しのうえ商品開発。



■ 網羅性確保とモニタリング

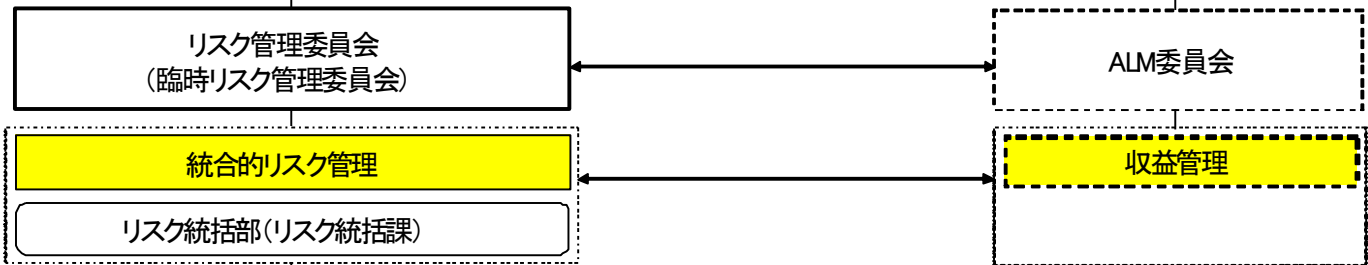
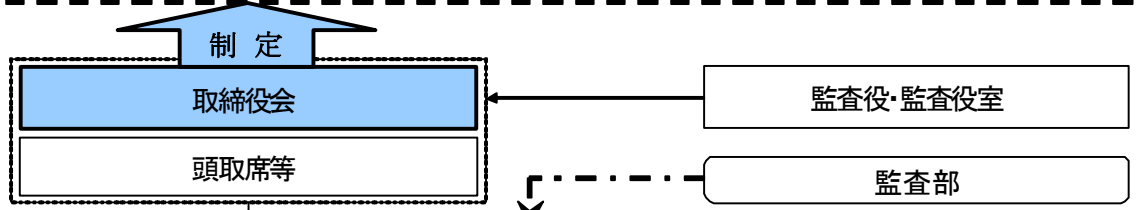
3. 市場リスク管理

3. 市場リスク管理 (1) 市場リスク管理体制

H20年11月
制定

有価証券運用・リスクテイクポリシー

<銀行単体>



市場リスク管理

市場リスク管理部門 (ミドルオフィス)

リスク統括部 (市場リスク管理室)

H20年10月
設置

事務管理部門 (バックオフィス)

関係各部

市場部門

関係各部

有価証券運用会議

※資金証券部の運用方針
等に関係部横断的に
協議する会議体

H20年9月
設置

(2) リスク管理ツール

【基本方針】 「有価証券運用・リスクテイクポリシー」に基づき、ローリスク、相場観に過度に依存しないこと、等を基本方針とする。

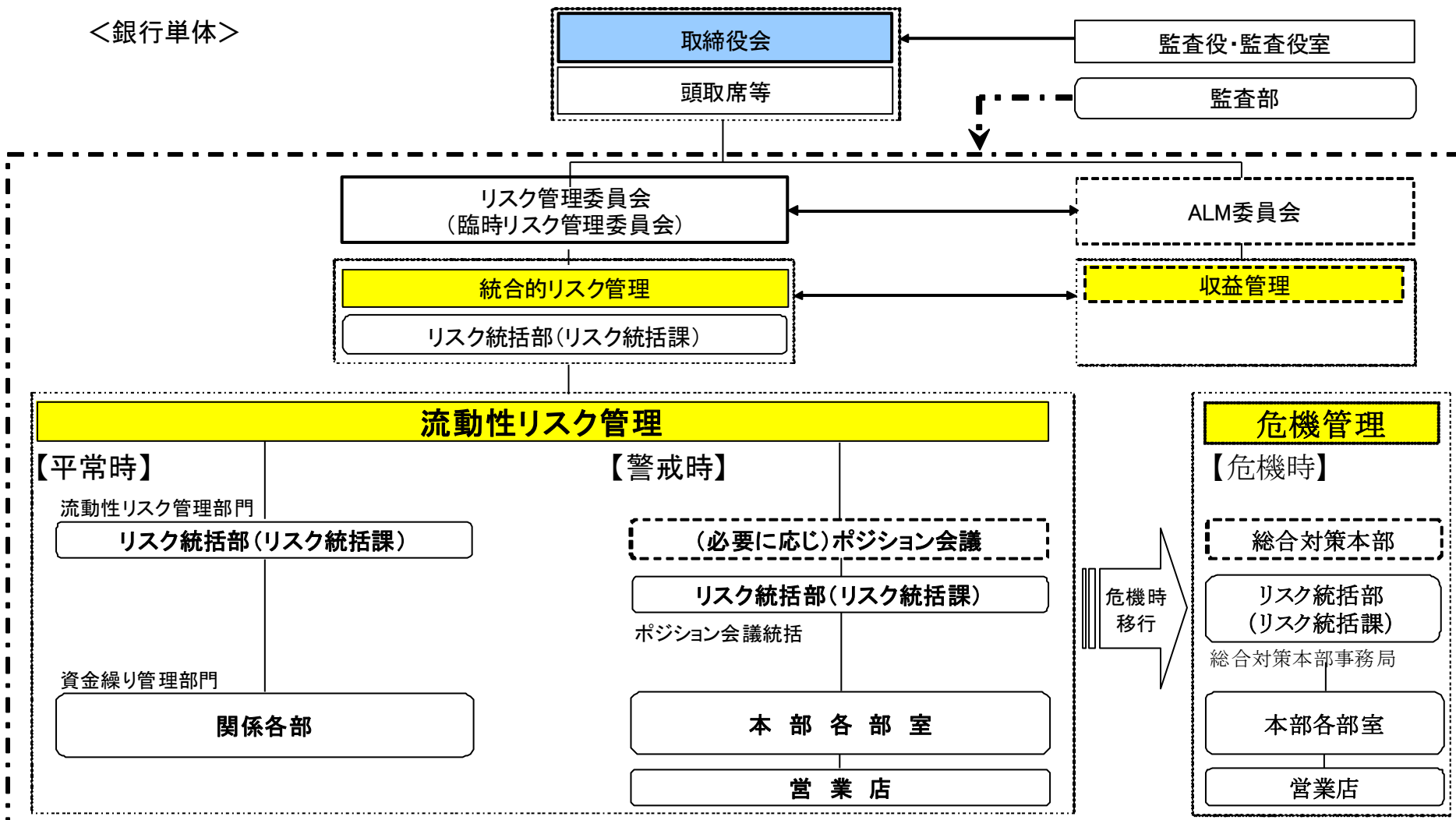
市場リスクの管理ツール	改正ポイント
<p>■ 統合リスクリミット … 市場リスクを含めた、統合リスクのリミット管理</p>	<p>■ 抵触水準の「深さ」を見直し</p>
<p>■ 損失限度 (個別銘柄・部門・全体) … 評価損益水準等を考慮して設定</p>	<p>■ 市場リスク計測方法を見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市場リスク量 ・ 保有期間 ・ 観測期間 他
<p>■ アラームポイント (個別銘柄・部門・全体) … 損失限度の手前の警戒水準として設定(あらかじめ行動を決めておく)</p>	<p>■ その他の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 限度額 ・ 権限 ・ モニタリング頻度 他
<p>■ 保有枠 … 商品別に保有枠を設定</p>	
<p>■ その他 … アウトライヤー規制、BPV、貸出との合算管理 他</p>	

4. 流動性リスク管理

4. 流動性リスク管理

(1) 流動性リスク管理体制

<銀行単体>



(2) 流動性リスクの危機管理

■ 流動性リスク管理の重要性

- ・ 実際に顕在化した場合には、銀行の経営破綻に直結するおそれがある。
- ・ イベント性が極めて高く、風評リスクにも注意する必要がある。

■ 危機管理指標による日次管理

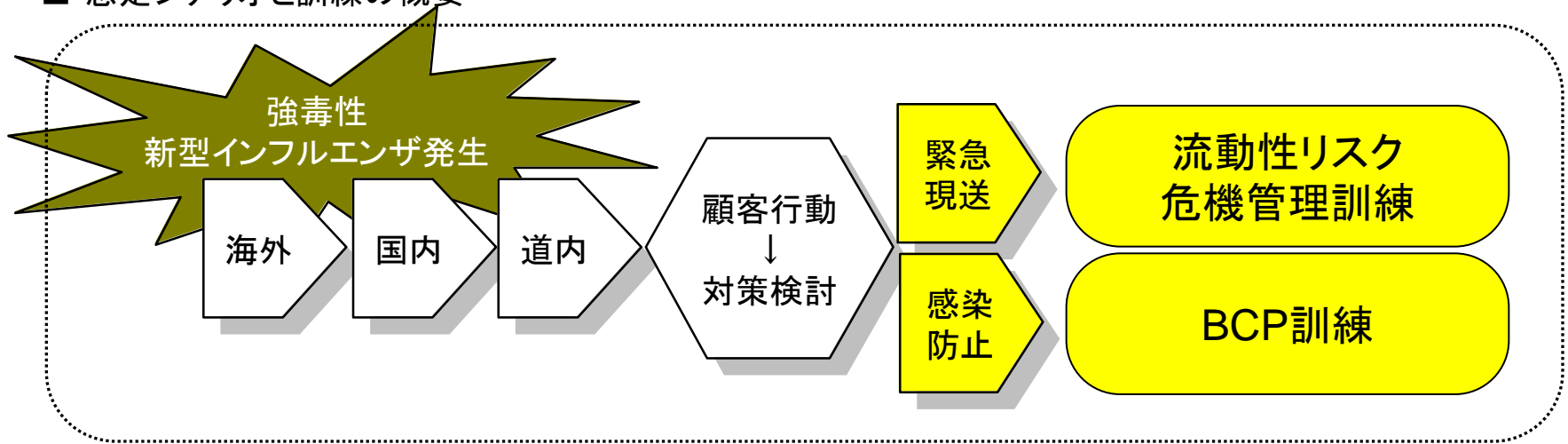
- ・ 「平常時」、「警戒時」、「危機時」の区分に応じた対応。
- ・ 定量指標、定性指標を定め、日次でモニタリング。
- ・ 抵触時には、速やかな意思決定を行う。

■ 流動性リスク危機管理の実効性確保

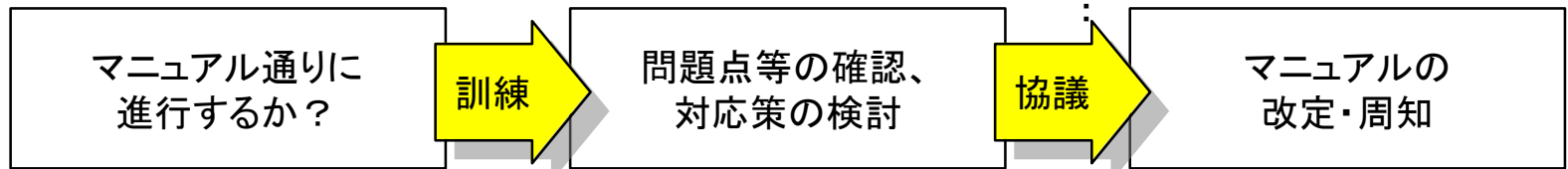
- ・ 対応手段・手続の事前策定（わかりやすいマニュアルの作成等）
- ・ 訓練の定期的な実施。

(3) 流動性リスクの訓練の実施

■ 想定シナリオと訓練の概要



■ 流動性リスク危機管理の実効性確保



■ 流動性リスクのストレス・テスト

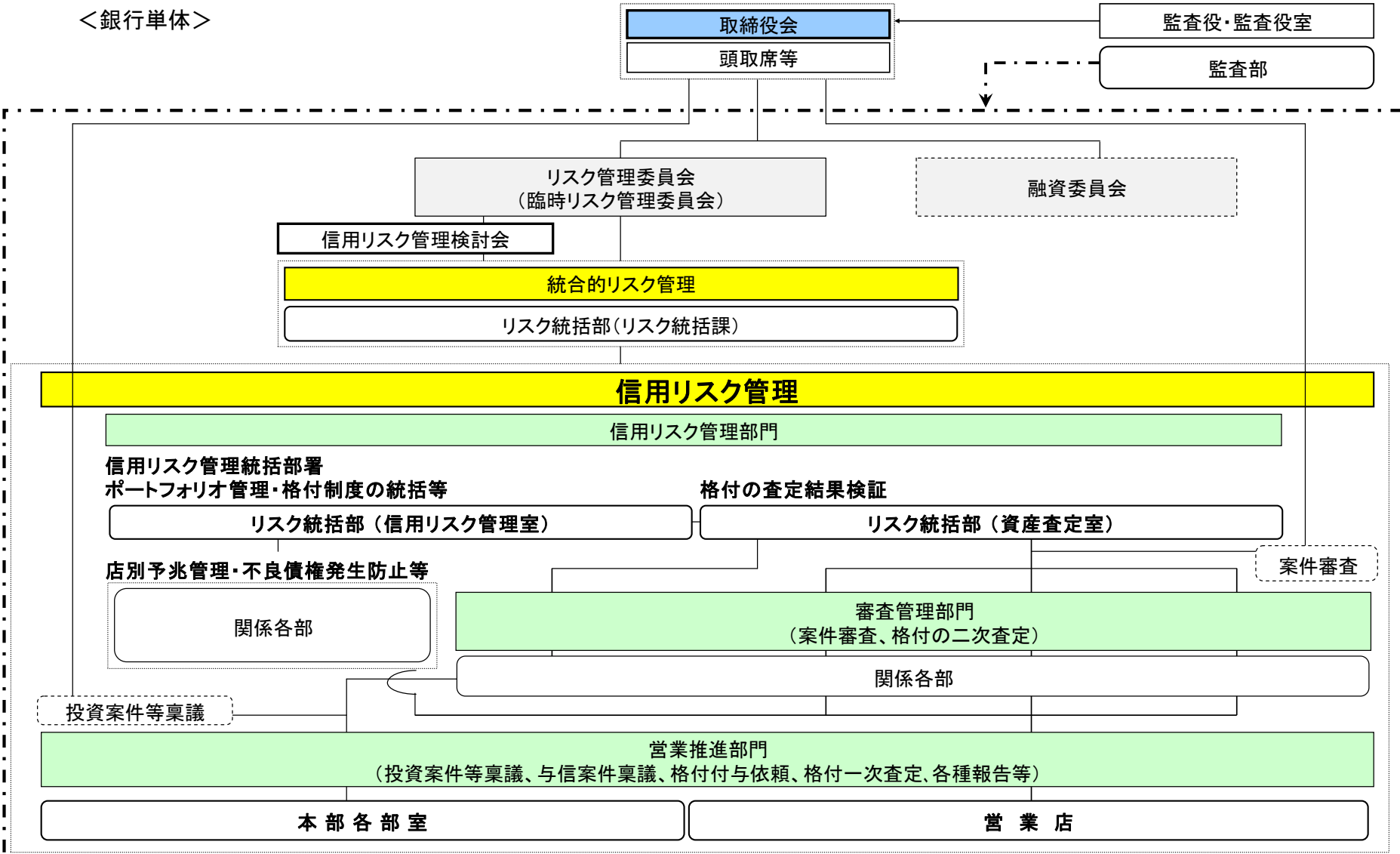
- ・ 強毒性新型インフルエンザが発生した場合、流動性にどのような影響が生じるか？

5. 信用リスク管理

5. 信用リスク管理

(1) 信用リスク管理体制

<銀行単体>



(2) 内部格付制度と実務運用

■ 格付体系とパラメータ

・ 格付体系とデフォルト確率 (PD)

格付	債務者区分	PD
1格	正常先	
2格		
3格		
4格		
5格		
6格		
7格		
8格	要注意先	
9格		
10格	要管理先	
11格	破綻懸念先	
12格	実質破綻先	
13格	破綻先	

・ デフォルト時損失率 (LGD)

資産区分等	LGD
事業性・与信	
個人ローン	
住宅ローン	
アパートローン	
⋮	

推計したPDやLGDを
どのように活用しているか

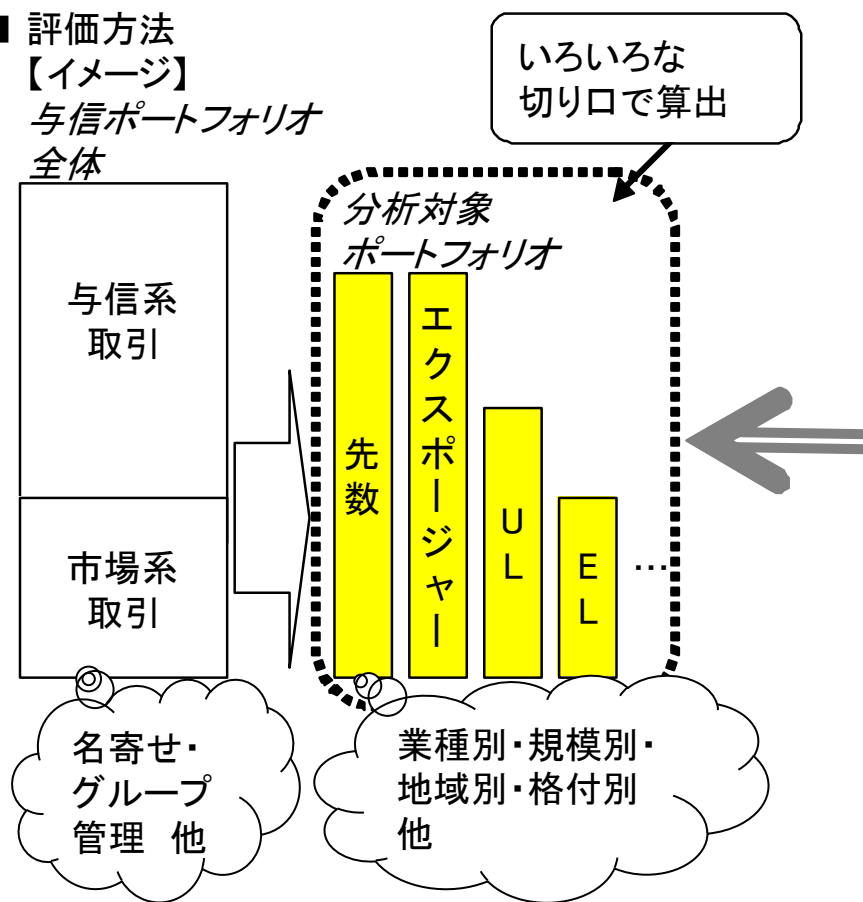
- ・ 収益管理の信用コスト率
… 推計した「PD × LGD」を適用。
- ・ 案件格付
… 債務者格付と、4区分のLGD格付とのマトリクス。
案件のリスクに見合ったプライシングに活用。
- ・ 審査権限
… 貸出限度額の権限は、格付別の体系。
- ・ 投資基準
… シンジケートローン等の投資基準に格付を活用。
- ・ 信用リスク量の算出
… PD、LGDの他、枠空等には推計した掛目を用いて算出。
- ・ 基礎的内部格付手法による自己資本比率試算
⋮

(3) 与信ポートフォリオ分析

- 主に、集中度・リスク量・格付別残高等を分析

⇒ (目的) 与信集中リスクの削減、信用コストの削減

- 評価方法
【イメージ】
与信ポートフォリオ
全体



【 目的に応じた評価・分析 】

①現状分析

- ・ ULをベースにクレジットラインを検証
- ・ ULを統合リスク量算出に活用
- ・ ELを与信コストの定量的予測に活用
- ・ 格付遷移、デフォルト率の状況等から
中小企業ポートフォリオ分析を実施
他

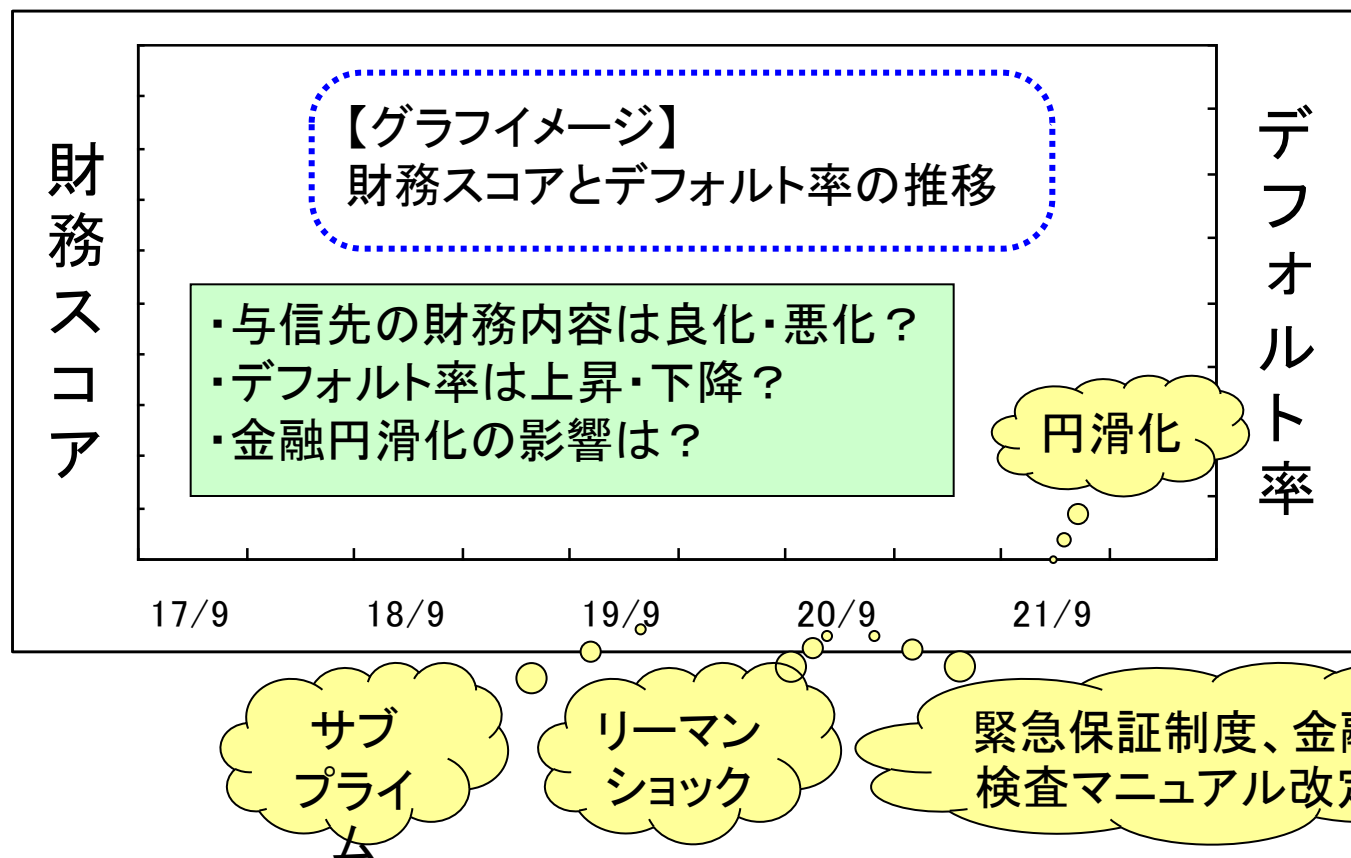
②ストレス・テスト

- ・ 特定の業種や大口グループのデフォルト
確率(PD)上昇
- ・ 不動産担保価値の低下によるデフォルト
時損失率(LGD)の上昇
他

(4) 与信ポートフォリオ__使用例～その1

■ 与信先の財務内容とデフォルト率の推移を分析。

⇒ たとえば、与信先の財務内容が悪化しているにもかかわらず、デフォルト率が低下している場合は、今後のデフォルト状況に注意する必要がある。



(5) 与信ポートフォリオ__使用例～その2

■ デフォルト率等を用いて、債務者区分別ELを算出。

⇒ ELベースの与信コストを試算 (下記①+②+③+④)

□メリット～何通りものシミュレーションが可能

・全体のデフォルト率 **A** ～外部要因

・所謂、突然死率 **B** **B'** ～内部管理要因

① 「正常・要注意・要管理」から「破綻懸念(破懸)以下」に転落する部分の引当額試算。

・ $\text{格付別残高} \times \text{無担保与信率} \times \text{破懸基準の1年デフォルト率} = \text{EL}$

	a	b	c=a×b	d	e=c×d	債務者区分別 ELを集計	
	残高	無担保 与信率	無担保 与信額	破懸基準 デフォルト率	EL	f (合計はeと一致)	
1格						正常から転落	
2格						要注意から転落	
⋮						要管理から転落	
全体				A			

・ $\text{債務者区分別EL} \times \text{破懸以下遷移率} \times \text{引当率} = \text{引当額}$

f		g		h	f×g×h	正常・要注意・ 要管理から、 破懸以下に 転落する部分 の、個別貸倒 引当金の試算
破懸と実質破綻以下では引当率が異なるので分けて試算		遷移率	引当率	引当額		
正常からの 転落部分のEL	破懸		B		正常・要注意・ 要管理から、 破懸以下に 転落する部分 の、個別貸倒 引当金の試算	
	実質破綻以下					
要注意からの 転落部分のEL	破懸		B'			
	実質破綻以下					
要管理からの 転落部分のEL	破懸					
	実質破綻以下					

② 「破懸」から「実質破綻以下」に転落する部分の引当額試算。(上記①と同様に計算)

③ 担保二次ロス、破懸引当率変動、回収・ランクアップ等による調整。

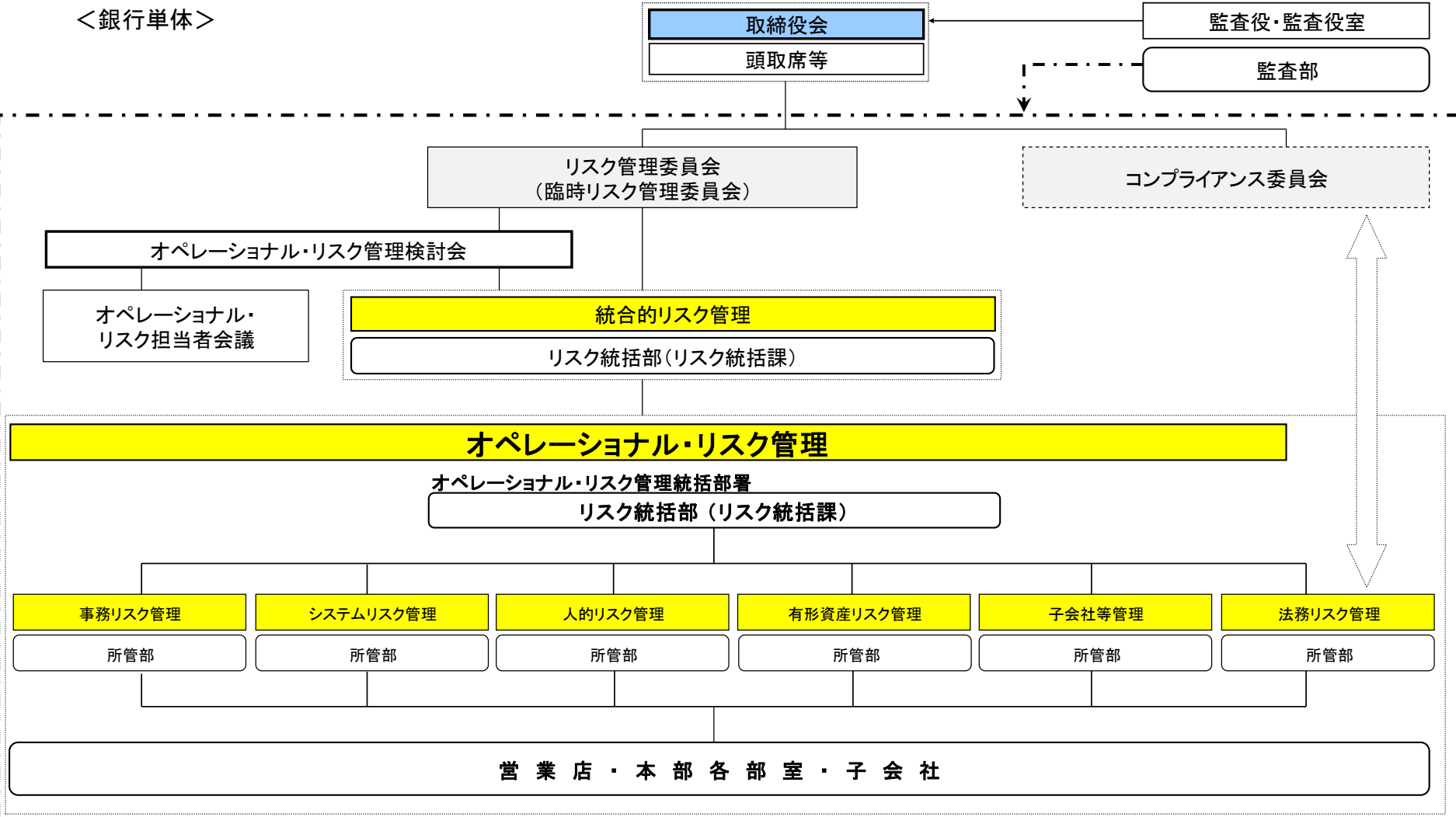
④ 一般貸倒引当率の試算。(直近算定期間の棄損率を上記①から求めた棄損額により算出)

6. オペレーショナル・リスク管理

6. オペレーショナル・リスク管理

(1) オペレーショナル・リスク管理体制

<銀行単体>



(2) オペレーショナル・リスク管理の運営状況

■ オペレーショナル・リスク管理プログラム

- ・ 期初、オペリスク管理所管部が、半期のオペリスク管理施策を策定。
- ・ 進捗管理を行い、オペリスク管理検討会にて報告。

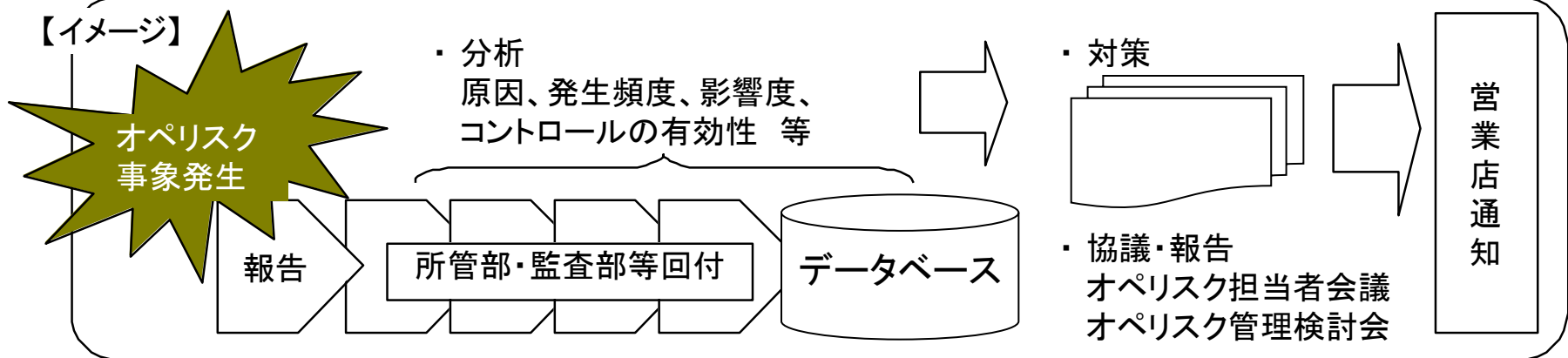
■ RCSA

- ・ 本部、営業店、関連会社のオペリスクを管理対象とし、定期的を実施。

■ KRI

- ・ 適宜指標の見直しを行い、月次で観察・検証。

■ オペレーショナル・リスク事象への対応強化

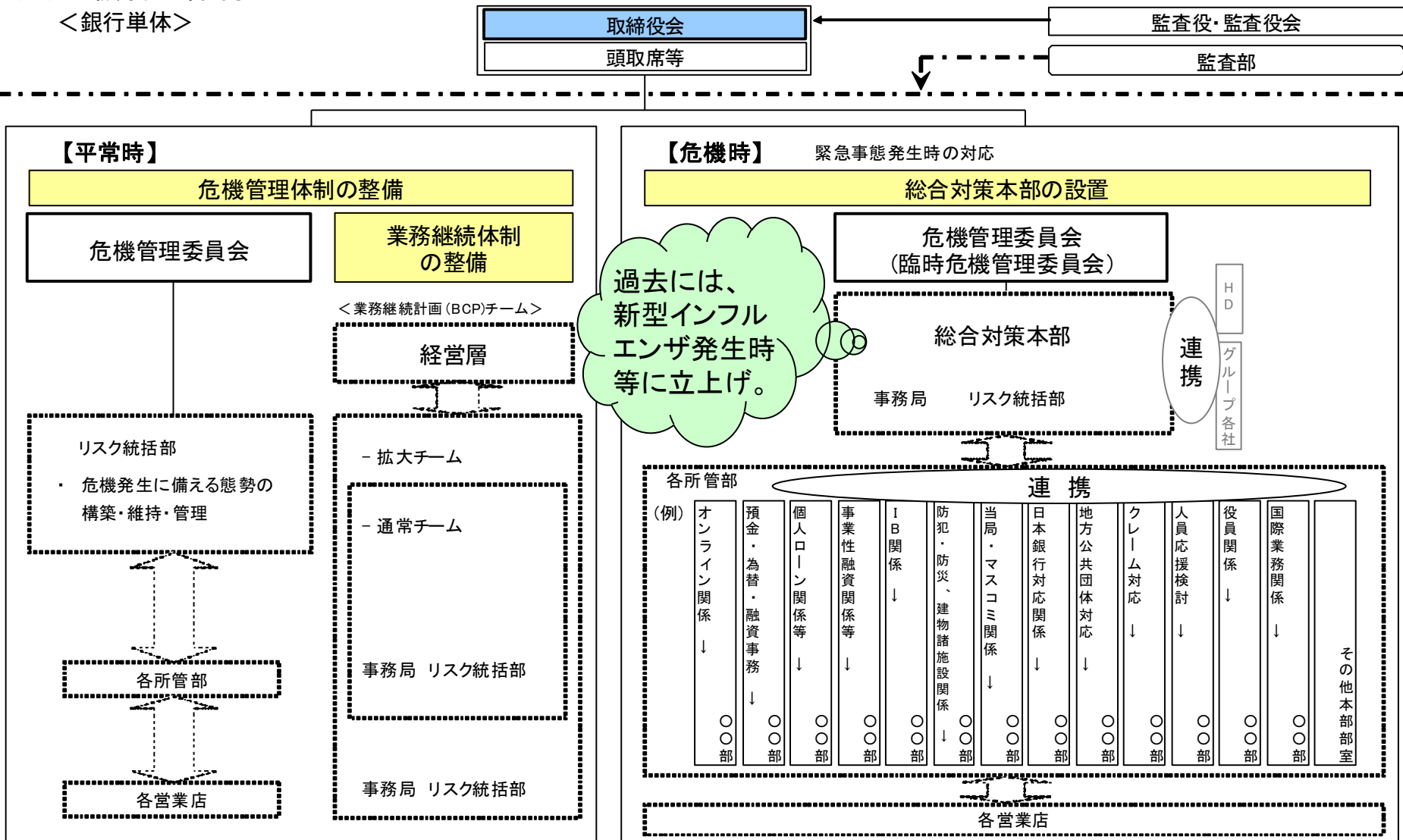


7. 危機管理とBCP

7. 危機管理とBCP

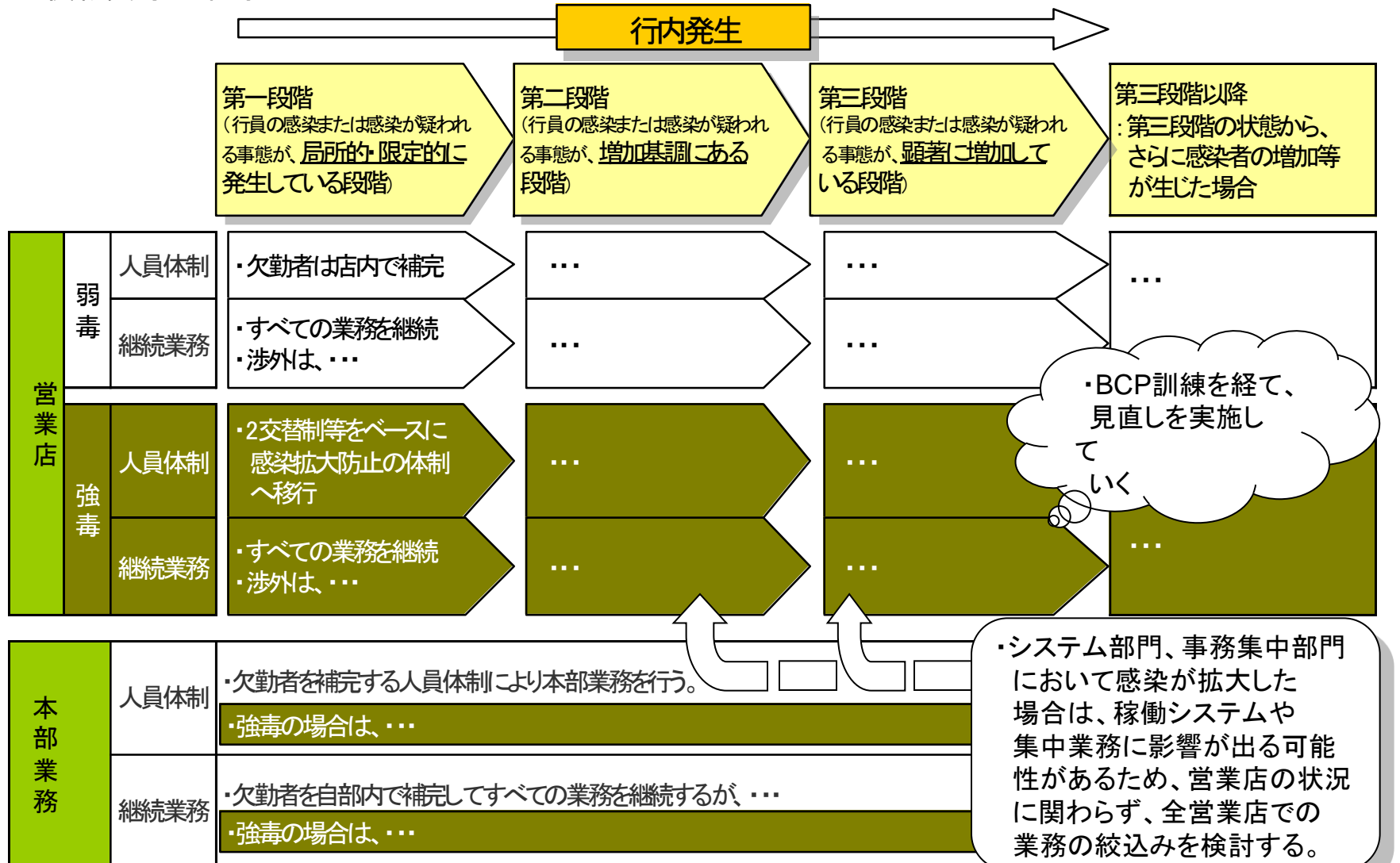
(1) 危機管理体制

<銀行単体>



(2) 新型インフルエンザ対策のBCP

■ 役職員等感染時の対応



8. リスク管理における今後の課題

8. リスク管理にかかる今後の課題

■ 市場リスク管理

- コア預金
 - ・ 流動性預金の金利リスク精緻化の観点から検討は進めている。
 - ・ 一方で、「リスクテイク」余力が増加すると考えていいのか、検討課題も多い。
 - ・ 管理態勢(運用面、バックテスト等の検証、監査等)整備と併せて検討。
- プリペイメントとロールオーバー
 - ・ 一部の内部管理に使用しているが、一層の精緻化および活用に向けて取組み中。
 - ・ リスク量、時価開示、収益管理等への反映を検討。

■ 流動性リスク管理

- 流動性規制への対応
 - ・ 流動性カバレッジ比率、安定調達比率算出等にかかるギャップ分析中。
 - ・ 規制動向および定量的影響度調査の状況を注視しながら対応準備。

■ 信用リスク管理

- 格付モデルのチューニング
 - ・ パフォーマンス(AR値、序列感等)向上のための取組み。
 - ・ 計測期間、採用財務指標、実態バランスの反映方法等、見直しを検討中。

■ オペレーショナル・リスク管理

- 外部データの活用(オペリスク・データコンソーシアムへの加入)
 - ・ 他行の損失事例も参考にし、潜在的なリスク把握および対策実施に活用可能であり、体制面を考慮しつつ検討。
- 外部委託先の情報漏えい対策(再委託先)
 - ・ チェック表を改定し、管理強化を実施中。PDCAにより実効性確保を図っていく。

本資料に記載している内容の無断での転記・転載、および、本資料の第三者への配布は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

- お問い合わせ先 -

北洋銀行 リスク統括部
〒060-8661 札幌市中央区大通西3丁目7番地
TEL:011-261-1341 FAX:011-261-1605